

令和元年度盛岡第二高等学校第2回学校評議委員会 記録

令和2年 2月25日(火)

14:30～16:00

場所：盛岡二高 会議室

進行：副校長 記録：総務課

○出席者 学校評議員 4名

学校職員 9名

○日程 14:10 受付 14:30 評議員会(～16:00)

(1) 開会の言葉

(2) 校長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。今日の会議では今年度の本校の取組状況について学校評価の結果も踏まえながら御意見を頂き、来年度の学校経営計画に生かして参りたい。

(3) 令和元年度学校概況説明

ア 重点目標について 【校長】

- (1) 学力向上について、「授業がわかると答えた生徒」の割合が、国語・数学で目標を上回り、英語もほぼ目標に近い値だった。
- (2) キャリア教育と進路実現について、「国公立大学の進学希望達成率」は目標50%に対して40%、「四年制大学進学希望達成率」は目標90%に対して83%だった。
- (3) 部活動の充実・主体性の育成について、92%の生徒が熱心に取り組んだと答えた。
- (4) 健康保持と人間性の育成について、「生徒心得やマナーを守る生徒の割合」の81%という結果には不満である。
- (5) 開かれた学校づくりについて、「教育目標を認識している」保護者の割合は目標値に近かった。

イ 各課取組状況について

(総務課) 【総務主任】

- 1 庶務・行事等諸活動を円滑に運営する
 - ・保護者や地域の方々の御協力で非常に円滑に進んでいる。
 - ・三者面談の際の2階ラウンジの行事・部活の紹介は非常に好評である。
- 2 PTA(白梅振興会)活動の活性化を図る
 - ・保護者が大変協力的で、楽しく活動していただいている。
 - ・広報委員会で作成したPTA会報が、県で優秀賞を受賞し、東北代表に推薦された。

- 3 周年に向け資料を整備する
 - ・130周年に向けて準備をしなければならない。
- 4 白梅同窓会の連携促進に努める
 - ・昨年度の寄付金が少なく、同窓会報が初めて白黒になった。
 - ・若い同窓生に、二高の存続に関して真剣になってもらわなければならないと思っている。

(教務課) 【教務副主任】

- 1 生徒の学力向上
 - ・家庭学習時間とその他の時間とのバランス等について分析し、全職員で共有した。
 - ・この3年間、家庭学習の平均時間が少しずつ減少していたが、2年生で家庭学習時間が増加した。
 - ・生徒にとって、部顧問からの学習支援や呼び掛け指導等が非常に効果的であるので、引き続き推進していきたい。
- 2 教員の指導力向上
 - ・情報研究課という課で授業研究会等を行なっている。
 - ・応用力に関して生徒・保護者共に不足しているというような声も上がっている。

(生徒指導課) 【生徒指導副主任】

- 1 生徒規律の確立
 - ・毎月整容指導をしているが、服装については特に大きな乱れもない。
 - ・情報モラルについて注意して見ていく必要がある。
- 2 生徒会活動・部活動の活性化
 - ・今年度も全国大会出場の部が出ている。
 - ・生徒会活動についても主体的に活動する生徒たちが多い。
 - ・応援歌練習について厳しいのではないかという声もあるが、良い伝統を守りながら改善しなければならないところは見直していくということも必要と考える。
- 3 安全指導の徹底
 - ・安全指導については、大きな問題なく過ごしている。

(進路指導課) 【進路指導主任】

- 1 進路意識の涵養
 - ・「イワテーブル」は好評なので、ぜひ来年度も継続していきたい。
- 2 推薦入試指導の充実
 - ・全職員による指導なので、その時期にはかなり大変な状態になるが、生徒の進路目標実現のために頑張っている。

3 一般入試指導の充実

- ・推薦で進路が決まった生徒はモチベーションが保てないのが現状で、一般入試で頑張る生徒に向けてどれほど手厚く対応出来るかというのがこれからの課題である。

4 進路情報の提供・発信

- ・P T A進路学習会の土日開催を来年度も継続したい。
- ・来年からの大学入学共通テストについて、具体的なものが見えない状況ではあるが、たとえ断片的な情報でも生徒・保護者に伝えながら進めていきたい。

(保健厚生課) 【保健厚生副主任】

1 健康管理・安全管理の徹底

- ・今年度は学級閉鎖と集団感染はみられなかった。
- ・避難訓練では、今年は煙体験を実施した。
- ・来年度は岩手の防災スクール実践校の申込を行わず、学校独自での被災地訪問を行なっていきたい。
- ・今年度はエビペン講習を行なったが、来年度はA E D講習を行なう予定。

2 保健組織活動の充実

- ・学校保健委員会で、生徒の研究発表を行なっている。
ウ 学校評価結果について
- ・全体的な傾向としては昨年度とほぼ同じような傾向だった。
- ・学習と進路に関わる項目で低めの評価が目立つ。
- ・生徒の肯定的な評価が低い項目は昨年に引き続き項目5「応用力のつく授業実践」。
- ・項目4「家庭学習の課題点検」が保護者の肯定的な評価が最低だった。
- ・評価が高かった項目は項目15「安全・清潔な学習環境の保持」、20「学校徴収金の額」。
- ・項目1「教育目標の周知」は昨年度も今年度も高評価。
- ・項目7「生徒会活動や部活動の活発化」は、生徒と保護者からは好評価だが職員の肯定的な評価が低下している。
- ・項目5「応用力のつく授業の実践」は昨年度に続いて生徒職員で最も評価が低かった。
改善策については、授業の工夫は勿論だが家庭学習習慣の定着が必須になると考える。
- ・項目4「家庭学習課題の点検」は保護者から低い評価になった。特に1年生の保護者は生徒の家庭での学習が不足していると感じているようだ。
- ・項目3「学習指導の徹底」については昨年度より僅かに改善されたが、生徒職員共にワースト2の評価だった。改善策としては、良質な問題演習、応用力を強化したいというふうに考えている。進路目標達成のためには日々の努力が大事だということを1年生の時からしっかり話して家庭学習を定着させたい。
- ・項目8「勉強と部活の両立」の評価は、全体としては低い方に類している。職員の評価が上昇したとののは休養日が出来て職員の休みが増えたからと考えられる。

(4) 懇談

○進行：「学校評価」について御意見を伺いたい。

評議員

- ・「学校評価」結果の「職員」というのは教員だけか。また、これはいつ頃の調査か。
- ・生徒に手を掛ければ掛けるほど、逆に待ちの姿勢や頼りの姿勢が強くなることもあると思われ、悩ましいところがある。
- ・まずは指導力の工夫ということがよく挙げられる傾向にあるが、もう少し生徒自身の踏ん張りや頑張りがないと、やはり学力は上がらない。
- ・「自己肯定感」を育てるためには、周りからの評価を伝え続けることが必要。
- ・生徒も勉強しなければならぬことは当然わかっている以上、どう上手くモチベーションを上げるかということが、指導する側に課せられている。
- ・盛岡二高のワンチームの様子が非常によく伝わってきた。
- ・家庭学習時間についての調査項目がないのが、惜しい。もし高校でも県や国が実施しているデータがあるのであれば、比較しやすくなる。

教務課：家庭学習の実態については、学校評価とは別に家庭学習調査を実施している。学校評価の方は、生徒の意識付けについての質問となっている。

○進行：「部活動」について御意見を伺いたい。

- ・盛岡二高は平日のノー部活デーの設定等についてはどのようになっているのか。
- ・特に陸上競技で県で入賞した生徒の種目まで書かれているところに、記録なども載っていればより良い。

進 行：学校全体で何曜日という指定ではなく、各部活動に任せているが、週に1回平日は休むということをやっている。

○進行：「進路指導」について御意見を伺いたい。

- ・進路指導として様々な進路ガイダンス、卒業生を囲む会、進路講演会、あるいは PTA の進路学習会の開催等、啓発的体験を設定しているが、やはりこういったことを地味ではあっても今後も継続していく必要がある。
- ・「卒業生を囲む会」は、大先輩ばかりではなく、1 学年か 2 学年上くらいの先輩の話であれば自分との年齢も近くて、非常に生徒の心に響くのではないか。

進 行：「卒業生を囲む会」は、卒業してから 3 年以内の生徒を呼んで話をしてもらっている。

校 長：卒業してすぐの生徒だとまだ学部学科に進んでいないので、大学の具体的な話が出来にくい。3 年生、4 年生になると、忙しくてなかなか来られない。

○進行：春の第1回評議員会の頃と今と、また、評議員になりたての頃と何年か経ってからの今とで、印象が変わったことはないか伺いたい。

評議員

- ・学年が上がってくるほどにこの学校に入って満足している生徒数が多くなっていることはとても素晴らしいことだ。
- ・応用力のつく授業というが、習ったことの基礎さえしっかり解れば、自分で応用するものではないか。今は応用の仕方も教えなければ駄目なのかとったりすると、複雑だ。
- ・去年キャリア教育として学校祭で個別に発表した今の2年にと、そうした活動をしていなかったその前の学年などを比較して、何か変わりはあるか。
- ・個人個人で書いたものを見て、大変驚いた。上級生の展示もあったが、それよりも1年生のほうがしっかり書いていたような気がした。
- ・進路について、きめ細かい指導がなされていると思った。
- ・「学校に行こう週間」で、目玉企画を用意することは非常に良いことだ
- ・自分の目指すものがきちっとすれば、次に自分が何をすべきか明らかになり、具体的に色々なことが見えてくる。それは生徒の勉強に対するモチベーションに直結する
- ・3年間使うような自分の将来を考えるファイルをポートフォリオのように貯めていて、1年前に自分が何を考えていたのか振り返ったりすることができるという。

進路課：生徒の発表は「イワテーブル」というジョブカフェが主催の企画である。本数字では出ていない部分で進路に役立っていると思っている。

進路課：良いサイクルができて欲しいと思っている。実際に、今の2年生は、他学年に比べて家庭学習時間が伸びたという結果が出ている。

○進行：「文系・理系のコース選択」について御意見を伺いたい。

評議員

- ・文系と理系とで、それぞれを重点に勉強するような形の科目構成、あるいはレベル構成になるのか。
- ・2年から3年に進級する時に、変わろうと思えば自分の希望する方に移れるのか。
- ・高校1年で決めるのはかなり大変だ。将来を決めるには早すぎないか、というのが生徒の気持ちだと思う。
- ・あまりガチガチに枠にはめるというのも息苦しくならないのかという感覚を抱いた。

進 行：理系に行くと理科・数学の時間数が増加し、文系に行くと英語や社会が厚くなる。

進 行：コース変更は難しい。現実的には、受験は難しい状況にある。学年が上がって数学・理科の難度が上がると、自分でやるのは相当きつくなる。

校長：場合によっては認めている場合もあるが、理科1科目しか勉強していなかったものを急遽2科目勉強するのは、やはり制度上は難しい。

校長：国の動向として文理分割からの脱却という言葉が出てきている。

○進行：「いじめ対策」について御意見を伺いたい。

評議員

- ・年に4回実施しているいじめ予防アンケートとはどのようなものか。
- ・中学校でも実施していて、滅多にSOSは出ないけれども、年4回の生徒へのアンケート調査というのはとても的確だと思う。

生徒課：生徒たち全員に、いじめのような経験をしたことがあるか、自分がされているわけではないがそのようなことを見たことがあるか、という内容の質問を行った。多少気になる内容のものが出てくることがあるので、クラス・学年で、大丈夫かどうかというところについて情報を集めたりする。

○総務課：今日欠席の評議員からのメッセージを代読する。

- ・殆どの二高生は元気良く相手に聞こえる挨拶が出来ていると思うので、良いところとしてこれからも続けて欲しい。
- ・近隣企業から自転車の交通マナーの向上を望む声があった。
- ・女子ばかりだが陰湿ないじめ等はかなり少ないと思う。勉強も部活動も大切だがコミュニケーションもとても大切だ。

○校長：コミュニティスクールについて御意見を伺いたい。

評議員

- ・市町村ごとにやるということで、盛岡市はまだGOサインが出ていない。
- ・国レベルでも指定校があって、オンリーワンの学校づくりのためにもものすごく良いツールだということを情報発信をして、徐々に広がりを見せている。
- ・そういった制度を導入すると、特に学校では副校長辺りが忙しくなる。

校長：八幡平市などが進んで実践しているが、小中に加えて高校にも進んでくる、ということだ。高校では西和賀高校と高田高校が今年度と来年度2年間研究指定校となっていて、その成果を踏まえながらこの制度が段々と進められている。

○進行：盛岡二高の評判をどのように聞いているか伺いたい。

評議員

- ・外出してバスに乗ったり歩いたりしている時には、やはり二高生だな、という良い印象しか持ったことがない。
- ・二高と言えどもまず応援団が素晴らしく、なぎなた部が頑張っている、吹奏楽部や最近合唱部も頑張っている、文武両道で頑張っている伝統校、という印象だ。
- ・県立の入学式・卒業式はなかなか見る機会はないのだが、二高はすごい。
- ・たまに、比較的歩道は広いとは言え、若干だんごになってガヤガヤしている生徒たちもいるが、マナーも躰もよく出来ていると感じる。
- ・イヤホンで聞きながら歩いている生徒がいる。両耳が塞がると、周りからの気配を感じ取り難いので、危険な場合もある。
- ・駅で通学時間帯に見かける高校生は、二極化している。二高の生徒は、緊張感を漂わせてキリッとした雰囲気があるとまでは言えないが、時折見かける生徒は非常に好印象だった。

(5) 校長挨拶

貴重な御意見を頂いた。来年度の学校経営に生かして参りたい。

(6) 閉会の言葉